



おくすり通信

No. 61 OTC医薬品その2

こんにちは、薬剤科です。前回に引き続き、OTC 医薬品についての解説を致します。OTC 医薬品は薬剤の持つリスクに応じて分類分けされていますので、今回はリスク分類について解説していきます。

《リスクによる OTC 医薬品の分類》

OTC 医薬品はリスクにより、要指導、第一類、指定第二類、第二類、第三類に分類されます。

「要指導医薬品」は医療機関で処方されてきた医療用医薬品と同じ成分の医薬品です。一般用医薬品としてのリスクが確定していません。転用されてから原則 3 年でリスクの程度に応じた一般用医薬品へ移行します。

一般用医薬品の中で特にリスクが高いものは「第一類」に分類されます。すぐには手の届かないような場所に陳列されており、購入の際には薬剤師による情報提供が義務づけられています。ロキソニン S（成分名：ロキソプロフェン）やガスター10（成分名：ファモチジン）などがあります。

リスクが比較的高いものは「第二類」、第二類の内、特別の注意を要するものとして厚生労働大臣が指定するものは「指定第二類」に分類されます。薬剤師だけではなく登録販売者も販売することが出来ます。新セルベール整胃プレミアム（成分名：テプレノン）やアレグラ FX（成分名：フェキソフェナジン）などが分類されています。

これら以外のものは「第三類」に分類されます。

《リスクの比較》

医療用から転用したスイッチ OTC 医薬品の中にファモチジンとテプレノン（どちらも成分名）という 2 つに胃薬があります。ファモチジンは第一類、テプレノンは第二類に分類されています。医療用医薬品としての情報も交えながら 2 つの薬剤を比較してみましょう。

	ファモチジン（第一類）	テプレノン（第二類）
特徴	「攻撃因子抑制薬」と呼ばれ、胃酸（攻撃因子）の分泌を抑制することで胃が攻撃されるのを防ぐ。H2 ブロッカーとも呼ばれる。	「防御因子増強薬」と呼ばれ、胃粘膜（防御因子）を増強して攻撃因子から胃を守る。H2 ブロッカーと比べると効果は低い。
禁忌	本成分に過敏症	なし
相互作用	アソール系抗真菌薬と注意必要	なし
用法用量	1 回 10mg を 1 日 2 回 (医療用で胃潰瘍などに用いる場合は 1 回 20mg を 1 日 2 回でも使用)	1 回 50mg を 1 日 3 回
用量の注意	腎機能が低下している場合は減量必要	なし

効果やリスクに関わる部分を表にまとめてみました。第一類に分類されているファモチジンの方が効果は優れているものの、相互作用や腎機能への配慮が必要である事から、第二類のテプレノンに比べてリスクが高いことがわかります。第一類医薬品では薬剤師による情報提供が必要とされていることも頷けます。第一類医薬品を使用する際には薬剤師による説明をしっかりと聞いて理解してから使用するようにしましょう。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。